

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 4 月 5 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473100760		
法人名	医療法人社団林医院		
事業所名	グループホーム夕霧の家		
所在地	広島県呉市音戸町畑3丁目20番36号 (電話) 0823-56-1202		
自己評価作成日	令和3年12月24日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3473100760-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3473100760-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年3月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的で落ち着いた雰囲気を大切にしており、地域と共に歩むということを目指して、入居者様が楽しみながら、持っている力を発揮できるように支援しております。又、地域のお祭りや行事等、積極的に参加し、ボランティアの受け入れを企画することにより、地域交流の促進を図っており、入居者様が毎日楽しく生活が送れるように、職員一同、日々取り組んでおります。又、母体である医療法人を中心にして、関連の各施設と連携を図り、訪問看護を立ち上げており、医療介護サービスが提供できるように確立し、入居者様やご家族に対し、切れ目の無いサービスが提供できるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

コロナ禍で地域交流や外出、面会の自粛など様々な制限がある中、感染症対策を法人の指導のもと、徹底した管理に努めている。その状況下において事業所は施設内でできる事や行事を増やす等着目し、利用者の生き生きとした生活に繋げることを実施している。理念をもとに、利用者一人ひとりに着目し向き合う姿勢を常に持ち、「思いやる心」「気付き」を大切に個人の尊厳を尊重した支援を心掛け取り組んでいる。運営母体が医療法人であり、法人内の協力医療機関や訪問看護との連携が適宜になされ、安心して医療が受けられるよう体制を整えている。又、看取りの支援にも活かされ個人に寄り添った終末期の支援が行われている。

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	介護理念のひとつとして掲げ、理念に沿って日々取り組んでいる。管理者と職員共に気付き、思いやる心、やさしい言葉使いの理念を共有し、実践が理念に基づいたものとなるように日常的に取り組んでいる。	開設時からの理念を基本とし、利用者を人生の先輩として常に敬意を持ち一人ひとりの意思を尊重し、寄り添えるケアや言葉掛けに取り組んでいる。理念はフロアへの掲示、朝夕の申し送りやミーティングにて理解や周知に努め、「思いやり」「気付き」が支援の一つひとつに反映されている。	理念の実践を振り返る機会がなく、職員個人により周知の差が生じやすい状況がある。周知の機会を増やす等取り組みを検討することや理念と掛け合わせた目標を策定し取り組むことで、更なる理解を深めた支援と職員の資質の向上に繋がることを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	回覧板などを利用しながら、地域との交流を図るようにしている。	自治会に加入している。コロナ禍の感染が拡大する情勢下において地域の行事や活動は中止が続き、交流は難しい中でも地域の清掃に参加している。地域の祭りや毎年行われるウォーキングイベントへの参加は楽しみの一つで、再開されれば参加に意欲を強く持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの為、できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナの為、開催していない。	コロナ禍において運営推進会議は1年間開催できずにいる状況であった。以前は家族の参加をはじめ、民生委員や自治会長、駐在所警察官、市担当者、地域包括支援センター職員の参加があり、活動の報告や活発な意見交換がなされていた。	コロナ禍のため開催が困難である状況下ですが、書面を通じての報告や、そこに各関係者の意見がもらえ、それをまとめた議事録を送付するなどの取り組みを検討し、開催ができない状況下においても相互の理解や意思疎通を図れる体制ができることを期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市からのメールや電話にて連携を図っている。	市から送られるメールにて新型コロナウイルス感染症についてなど様々な情報の共有を行うと共に、必要時には確認や連絡を取り連携を図っている。地域包括支援センターとは利用相談があるなど市町との相互の協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。必要に応じて専門職の助言を受けながら、拘束をしない支援を日常的に行っている。	身体拘束排除の理念及び方針委員会にて毎回勉強会を開催し、身体拘束防止について理解を深めている。理念として尊厳を損なわないことを徹底し、利用者一人ひとりに目を向けその時の状態や様子に合わせ支援を行うことで身体拘束を行わないケアを実現している。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会を行い、職員一同、細心の注意を払い、防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じて、勉強会や話し合いを持ち、活かせるように努力している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、入居者やご家族に納得していただけるように、十分に説明を行い、理解をしていただけるように努力をしている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナで面会謝絶の為、電話対応にて対応するようにしている。	利用者の意見や要望は、日々の職員との会話や関わりから汲み取り把握に努めている。家族には面会ができない状況下において、電話連絡を主として聞くようにしている。面会ができず会いたいという希望にガラス越しでの面会を実施したことがある。	

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎週ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。管理者を通じ代表者へ随時報告され、意思決定が行われている。	朝夕の申し送りや毎月の職員会議にて職員の意見や提案が行える機会を設け、思いを気軽に表出できるように配慮している。職員も自由な発想にて提案が行える意識づけがなされている。管理者はそれらの意見を集約し、毎週週1回法人本部に各事業所が集まった際に代表者へ報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行ったり、疲労やストレスの要因についても気を配り、心身を休めることができるように、休憩場所や時間を設けている。職員同士の人間関係を把握したり、職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナで、研修会等参加できない為、事業所内で研修や勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナの為、できていない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人のニーズを十分に聞き、本人の思いや心身の状態に向き合い、職員が本人の信頼を受け入れられるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの開始までに本人の生活歴や経験を聞き、どのようにすることが、本人やご家族にとって一番良いのかを考えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面接に十分時間を費やし、需要と供給、支持的方法を考えている。本人やご家族の思いを十分考慮する。できる限り柔軟に対応していくように努めている。緊急性が高いと思われる場合は、他の事業所への紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が本人に寄り添い、その思いや希望を受け止め食器洗い、洗濯物たたみ、書き物、掃除等できる事をお手伝いして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の状況報告、夕霧便り、面会時に本人の様子をお伝えしている。ご家族が来られた時には、一緒に飲み物を飲んでいただいたり、外泊、外出をしていただくなど、よりよい関係が保たれるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナで面会謝絶の為、今はできていない。	利用開始時に昔の生活背景を確認し、日々の利用者との会話の中から地元の話などを聞くなど確認している。得た情報をもとに家族との繋がりも強くあることを理解し、適宜電話連絡を繋ぐことや家族へ毎月郵送の近況報告、年賀状で名前を書いてもらい送るなど、関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲の良い利用者同士の席を近くにするなど、関わり合いを持つことができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院された場合には、お見舞いに伺ったり、電話による連絡などで、これまでの関係を大切にしている。相談窓口を作り、その後の支援に応じる体制を作っている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意見や資料を検討しながら、本人に合ったライフスタイルを検討している。日々の行動や表情から、思いや意思を理解できるように心がけている。	利用開始時に家族の話やアセスメント、日常の会話をもとに、生活背景や本人の思いや意向の把握に努めている。やりたいことが自由にでき、のびのびとした生活が行えるよう、これまでの習慣や生活、思いを汲みとりながら個々のライフスタイルとして反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始までの生活歴などを十分に理解し、今までとあまり変わらない生活ができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタルチェック、睡眠、排泄の有無を確認し、その日の体調を観て、一日の過ごし方を検討している。できることや、やりたいことができるように、できないことはサポートすることで、少しずつでもできるように、一人ひとりの状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人やご家族の思いや意見を聞き、職員全員と関係者で意見交換や、モニタリング、カンファレンスなどを定期的に行い、介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族に思いや意向を確認し、計画作成者が職員の情報や毎月のモニタリングを反映させ、主治医や訪問看護との連携を踏まえ介護計画の原案を作成し、カンファレンスで職員の意見交換を行い完成させている。車椅子で入所となった方も歩行訓練を計画し歩行器で歩けるようになった事例もある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、個別の記録を記入し、申し送りでご入居者の状態を確認している。重要事項や気付きはすべて記入し、職員間で情報を共有しながらケアに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や、ご家族の要望に応じた介護計画を作り、柔軟な対応をしている。同じ敷地内にあるデイサービスや小規模多機能の利用者との交流などその時の要望に応じている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。</p>	<p>入居者が、地域で安心して暮らしていけるように、地域の皆様と連絡をとりながら、必要に応じてご意見を聞き支援へとつなげている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>健康面で気になることは、ご家族に随時報告し、本人やご家族の要望に応じたかかりつけ医と連携し支援している。</p>	<p>利用開始時のかかりつけ医も家族の受診協力を踏まえ可能としている。母体が医療法人であり、頻回の往診や、随時の対応も行えることで法人協力医に主治医を変更することも多く、訪問看護との連携など法人間での協力支援体制も確立している。専門医への受診も適宜行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	健康面や医療面について、24時間365日、いつでも相談できるようにしており、状況の変化に応じた支援をしている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入居者が入院したときには、本人の支援の方法に関する情報を、ご家族と病院関係者に提供し、早期の退院につながるように、退院後の計画を本人やご家族、職員で話し合い支援している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入居時に、本人、ご家族と終末期における対応を話し合い明確にしている。日頃から協力医の指導を受け、状態の報告や相談をして、職員全員で方針を共有したケアの実践に努めている。	利用開始時に重度化と終末期への方針を書面で説明し意向を確認している。希望により看取りを行う方針であり、その際は改めて意向を確認し、どのように支援を行うか家族と職員が一緒に考え、主治医に報告や相談を適宜行い、チームとして寄り添った支援がなされている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	医師、看護師の指導のもと、職員全員が対応できるように、定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身につけるように、マニュアルを基に取り組んでいる。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	マニュアルを作成し、入居者と職員が定期的に防災訓練や避難訓練などを実施し、連絡体制や、避難路や避難の手順などを確認している。また、運営推進会議などを通じて協力を呼びかけている。	年2回、定期的に防災避難訓練を実施している。災害別にマニュアルも策定し、近隣の3つの事業所との合同訓練も行い相互関係の協力体制を確認している。事業所はハザードマップ上水害の想定エリアにあり、地域の方との連絡体制を整え協力が得られる関係性を築いている。	災害時の備蓄は法人本部にて一貫して整えられ災害時に対応がなされる体制となっており、事業所自体には備えがなされていない状況がある。事業所内での備蓄も備えることで有事の際や緊急時に対し、より一層の安心の確保へ繋がることを期待する。



自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は、入居者に対して敬意を払い、接するよう心がけている。支援が必要な時には、本人の気持ちを考え、さりげないケア、羞恥心に配慮し、本人の尊厳を尊重したケアを心がけている。個人情報についても外部に漏れないように職員が徹底している。	理念の実践にて一人ひとりの個人の尊重を意識し日々の関わりに尽力している。コミュニケーションを大事にし、選択や意思決定のできる働き掛けや、本人の気持ちに寄り添ったケア、接遇や言葉遣いなども研修やミーティング等の話し合いにおいて全員で理解を深めながら実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを大事にすることで、自己決定の支援へとつなげている。意志表示が困難な場合でも、表情や反応から思いを理解し、希望や願いを意図的に引き出せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の思いに沿った生活ができるように、一人ひとりに話を聞きながら、支援するようにしている。入居者の生活のリズムを尊重し、ゆったりとした環境で、本人の意向や要望を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の個性や、希望、好みを尊重し、季節感や清潔感のある、その人らしいおしゃれができるように、ご家族の理解をいただきながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員は、入居者と同じテーブルで一緒に食事をしており、入居者ができる範囲内で、調理の準備をお手伝いしていただいたり、食後にはテーブルを拭いたり、後片付けをお手伝いしていただいたりしている。	朝食は手作りであるが、昼、夕食は冷凍された食材を湯銭で温め、利用者と一緒に盛り付けを行い提供している。献立は本部の管理栄養士により作成されるが、季節や行事毎には旬なものや調理を取り入れるようにしている。3月のひな祭りでは散らし寿司を作り喜ばれた例もある。	

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職員と一緒に食事することで、一人ひとり特徴を理解し支援している。食事の摂取量は毎回、確認している。摂取量が少ない時には、医師や看護師に相談したり、食事の形態などを考えるようにしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	うがい薬を使用して、うがいの支援や歯みがきや義歯の洗浄を行っており、声かけや、見守りを合わせて行っている。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの身体の状態に合わせた対応を行なっている。できることは見守りをして、できないことは支援できるようにして、自尊心を傷つけないように支援を行っている。	できるだけトイレに座って排泄が行えることを基本としている。排泄表をもとに個人の排泄パターンを把握すると共に、行動や様子を確認し、誘導することやできない部分へのさりげない援助を行うことや、羞恥心への十分な配慮を意識し徹底することで気持ち良く排泄が行える支援をしている。	
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、排便の確認をして、便秘気味の入居者には、水分補給や体を動かしたり、食事などにも気を配るようにしている。それでも排便のない人には、内服薬などを服用していただいている。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	原則には決めているが、入居者の希望に応じて対応している。入浴の時間も余裕を持っており、楽しんでいただるようにしている。	週2回、午前中の中の入浴を基本としている。入りたくない時には時間や日にちなみ柔軟に調整を行い本人の意向を尊重している。個人の体調や入浴習慣に合わせて、心地良い入浴となるように配慮している。脱衣場、浴室に適宜手すりを設置し、入浴が安全に行える環境に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<b>○安眠や休息の支援</b>  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	一人ひとりの体調を考慮し、ゆ ったりと休憩や睡眠をとれるよ うに支援している。常に清潔を 心がけ、安らぐことができる 場所であるように努めている。		
47		<b>○服薬支援</b>  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	入居者に処方されている薬につ いては、医師の指示に従い、職 員は入居者の内服薬を確認でき るようにノートを作成し管理し ている。また、服用を必ず確認 している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b>  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	本人の趣味や余暇の活動を生活 歴やコミュニケーションをとる ことで、把握するようにしてい る。本人に合った役割を見つけ 、無理をすることなく出番を多 く作り、張り合いが持てるよ うに支援している。		
49	18	<b>○日常的な外出支援</b>  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。	コロナの為、今はできていない が他科受診等はご家族様に協 力をお願いしている。	現在は感染症対策において外出 は控えているが、以前では近隣 のホームセンターに買い物が てらに散歩をしたり、ドライブ にて春の花見に行ったり、5 月のつつじが綺麗な時期に外 出を行っていた。事業所は海に 面していることでベランダに出 て外気や景観にふれ過ごして いる。	
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b>  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	原則として、現金は所持しない ようにお願いしているが、入居 者の力量を判断しながら対応 している。		

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>プライバシーに配慮しながら、希望に応じて、電話や手紙を出せるように支援している。</p>	/	
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>常に清潔を心がけ、心地良い気持ちになっていただけるようにしている。季節に合った花を飾ったり、貼り絵やぬり絵によるカレンダーを作ったりして、季節を感じられるようにしている。</p>	<p>建物室内は明るく開放的な洋風の造りが特徴であり、ゆったりとくつろいで過ごせるスペースや環境を備えている。海に面する立地であることから、窓から海を眺めたり、ベランダに椅子を出して海風を感じて過ごすことができる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>入居者同士が自由に過ごせるように、ソファや椅子を置き、家庭的でくつろげる空間を設けている。</p>	/	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>使い慣れた物や、ご家族の写真などを持参していただき、本人が大切にしてきた物に囲まれ、本人らしい居心地の良い居室作りを行っている。</p>	<p>ベッドやクローゼット、エアコンが備え付けである。利用開始前に事前に自宅を訪問し、今迄の暮らしの環境を確認し、それに近づけるように馴染みの物の持参や、過ごしやすい動線を考慮したレイアウトを整えている。本人がこれまで暮らしてきた生活や感覚が継続していけるよう支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者一人ひとりの身体の状態に合わせて、物の配置を考えている。入居者の状態が変化したときは、話し合いをして対策を考えるなどしている。</p>	/	

V アウトカム項目( 1F ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	介護理念のひとつとして掲げ、理念に沿って日々取り組んでいる。管理者と職員共に気付き、思いやる心、やさしい言葉使いの理念を共有し、実践が理念に基づいたものとなるように、日常的に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	回覧板などを利用しながら、地域との交流を図るようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの為、できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナの為、開催していない。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市からのメールや電話にて連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。必要に応じて、専門職の助言を受けながら、拘束をしない支援を、日常的に行っている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会を行い、職員一同、細心の注意を払い、防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じて、勉強会や話し合いを持ち、活かせるように努力している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、入居者やご家族に納得していただけるように、十分に説明を行い、理解をしていただけるように、努力をしている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナで、面会謝絶の為、電話対応にて対応するようにしている。		



自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎週ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。管理者を通じ、代表者へ随時報告され、意思決定が行われている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行ったり、疲労やストレスの要因についても気を配り、心身を休めることができるように、休憩場所や時間を設けている。職員同士の人間関係を把握したり、職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナで、研修会等参加できない為、事業所内で、研修や勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナの為、できていない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人のニーズを十分に聞き、本人の思いや心身の状態に向き合い、職員が本人の信頼を受け入れられるような、関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの開始までに本人の生活歴や経験を開き、どのようにすることが、本人や家族にとって一番良いのかを、考えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面接に十分時間を費やし、需要と供給、支持的方法を考えている。本人や家族の思いを十分考慮する。できる限り柔軟に対応していくように努めている。緊急性が高いと思われる場合は、他の事業所への紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が本人に寄り添い、その思いや希望を受け止め食器洗い、洗濯物たたみ、書き物、掃除等できる事をお手伝いして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の状況報告、夕霧便り、面会時に本人の様子をお伝えしている。ご家族が来られた時には、一緒に飲み物を飲んでいただいたり、外泊、外出をしていただくなど、よりよい関係が保たれるように、支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナで、面会謝絶の為、今はできていない。		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲の良い利用者同士の、席を近くにするなど、関わり合いを持つことができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院された場合には、お見舞いに伺ったり、電話による連絡などで、これまでの関係を大切にしている。相談窓口を作り、その後の支援に応じる体制を作っている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意見や資料を検討しながら、本人に合ったライフスタイルを検討している。日々の行動や表情から、思いや意思を理解できるように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始までの、生活歴などを十分に理解し、今までとあまり変わらない生活ができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタルチェック、睡眠、排泄の有無を確認し、その日の体調を観て、一日の過ごし方を検討している。できることや、やりたいことができるように、できないことはサポートすることで、少しずつでもできるように、ひとりひとりの状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の思いや意見を聞き、職員全員と関係者で、意見交換や、モニタリング、カンファレンスなどを定期的に行い、介護計画を作成している。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、個別の記録を記入し、申し送りですべての入居者の状態を確認している。重要事項や気づきはすべて記入し、職員間で情報を共有しながら、ケアに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や、ご家族の要望に応じた介護計画を作り、柔軟な対応をしている。同じ敷地内にある、デイサービスや小規模多機能の利用者との交流など、その時の要望に応じている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者が、地域で安心して暮らしていけるように、地域の皆様と連絡をとりながら、必要に応じてご意見を聞き、支援へとつなげている。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	健康面で気になることは、ご家族に随時報告し、本人やご家族の要望に応じた、かかりつけ医と連携し、支援している。		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	健康面や医療面について、24時間365日、いつでも相談できるようにしており、状況の変化に応じた支援をしている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院したときには、本人の支援の方法に関する情報を、ご家族と病院関係者に提供し、早期の退院につながるように、退院後の計画を本人、ご家族や職員で話し合い支援している。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、本人、ご家族、主治医により、終末期における対応を話し合い、明確にしている。日頃から、協力医の指導を受け、状態の報告や相談をして、職員全員で方針を共有したケアの実践に努めている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	医師、看護師の指導のもと、職員全員が対応できるように、定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身につけるようにマニュアルを基に取り組んでいる。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、入居者と職員が定期的に防災訓練や避難訓練などを実施し、連絡体制や、避難路や避難の手順などを確認している。また、運営推進会議などを通じて協力を呼びかけている。		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は、入居者に対して敬意を払い、接するように心がけている。支援の必要などときには、本人の気持ちを考え、さりげないケア、羞恥心に配慮し、本人の尊厳を尊重したケアをこころがけている。個人情報についても、外部に漏れないように職員が徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを大事にすることで、自己決定の支援へとつなげている。意志表示が困難な場合でも、表情や反応から思いを理解し、希望や願いを意図的に引き出せるように、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の思いに沿った生活ができるように、一人ひとりに話を聞きながら、支援するようにしている。入居者の生活のリズムを尊重し、ゆったりとした環境で、本人の意向や要望を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の個性や、希望、好みを尊重し、季節感や清潔感のある、その人らしいおしゃれができるようにご家族の理解をいただきながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員は、入居者と同じテーブルと一緒に食事をしており、入居者ができる範囲内で、調理の準備をお手伝いしていただいたり、食後には、テーブルを拭いたり、後片付けをお手伝いしていただいたりしている。		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>職員が、一緒に食事することで、一人ひとり特徴を理解し、支援している。食事の摂取量は毎回、確認している。摂取量が少ないときには、医師や看護師に相談したり、食事の形態などを、考えるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>うがい薬を使用して、うがいの支援や歯みがきや、義歯の洗浄を行っており、声かけや、見守りを合わせて行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの身体の状態に合わせた対応を行なっている。できることは見守りをして、できないことは、支援できるようにして、自尊心を傷つけないように支援を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日、排便の確認をして、便秘気味の入居者には、水分補給や体を動かしたり、食事などにも気を配るようにしている。それでも排便のない人には、内服薬などを服用していただいている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>原則には決めているが、入居者の希望に応じて対応している。入浴の時間も余裕を持っており、楽しんでいただけるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<b>○安眠や休息の支援</b>  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	一人ひとりの体調を考慮し、ゆ ったりと休憩や睡眠をとれるよ うに、支援している。常に清潔 を心がけ、安らぐことができる 場所であるように、努めている。		
47		<b>○服薬支援</b>  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	入居者に処方されている薬につ いては、医師の指示に従い、職 員は入居者の内服薬を確認でき るようにノートを作成し、管理 している。また、服用を必ず確 認している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b>  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	本人の趣味や余暇の活動を生活 歴やコミュニケーションをとる ことで、把握するようにしてい る。本人に合った役割を見つけ 、無理をすることなく出番を多 く作り、張り合いが持てるよ うに支援している。		
49	18	<b>○日常的な外出支援</b>  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	コロナの為、今はできていない が他科受診等のご家族様に協 力をお願いしている。		
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b>  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	原則として、現金は所持しない ようにお願いしているが、入居 者の力量を判断しながら対応 している。		



自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	プライバシーに配慮しながら、希望に応じて、電話や手紙を出せるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔を心がけ、心地良い気持ちになっていただけるようにしている。季節に合った花を飾ったり、貼り絵やぬり絵によるカレンダーを作ったりして、季節を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者同士が自由に過ごせるように、ソファや椅子を置き、家庭的でくつろげる空間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物や、ご家族の写真などを持参していただき、本人が大切にしてきた物に囲まれ、本人らしい居心地の良い居室作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者一人ひとりの身体の状態に合わせて、物の配置を考えている。入居者の状態が変化したときは、話し合いをして、対策を考えるなどしている。		

V アウトカム項目( 2F ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム夕霧の家

作成日 令和4年5月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所にて介護理念を掲げているが理念の実践を振り返る機会が少ない。	理念に基づいた実践を振り返る機会を増やす。	理念に基づいた実践に繋げて行く為に目標等を掲げ職員同士で共有しより良いサービスができるように努める。	
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。